

# JUNGIDO

## 滋賀県立膳所高等学校同窓会報

遵義堂

発行人/浅田幸作  
発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会  
大津市膳所 2-11-1  
TEL077-524-4295・FAX077-524-1732  
発行日/平成24年4月20日  
編集人/広報部会・山田 勲  
印刷/株式会社 サンエムカラー

URL: http://www.do.sokai.ne.jp/zekaukou  
E-mail: zeze-h-dousokai@poem.oc.n.ne.jp

VOL.29

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 = 高 = 2012

巻頭エッセー	1
平成24年度総会のお知らせ	1
理想を実現し社会へ貢献したい	2
平成23年度コアSSH「イギリス研修」	2
湖国寮のカレーライス	2
校歌の変遷(三)	3
科学の甲子園	3
近江のかくれ里	3
ひとりごと	3
同窓会事業のご案内	3
周年同窓会報告	4・5・6
記念同窓会報告	6・7
周年記念同窓会予告	7
石鹿文庫	7
膳所高校に学んで	7
膳所高 NEWS	8
会費納入について	8
会計報告・総会提出議案・同窓会役員・別紙	

### 巻頭エッセー

### 膳所高校の素晴らしさ

校長 瀧田 豊朗



昨年3月11日に発生しました東日本大震災で被災されました膳所高校同窓会会員の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。  
平成23年4月に身の引き締まる思いで、歴史と伝統ある膳所高校に勤めさせていただき、一年が過ぎました。

同窓会の皆様には、本校の教育活性化のために、物心両面にわたって二分な支援をいただいておりますことに、厚く感謝しております。

平成24年3月1日には、同窓会長の浅田幸作様をはじめ多くのご来賓のご臨席のもと、436名の卒業生を送り出すことができました。

膳所高校の素晴らしさは、同窓生の皆様が、国内だけでなく国外においても、めざましい活躍をされ、実績を挙げられていることはもちろんですが、現在、本校で学んでいる生徒諸君も、先輩方に続くよう日々、懸命に努力している所にあります。

生徒諸君は、「文武両道」に励み、1年生の後半から2年生にかけて、それが「言うは易し、行うは難し」であることを実感し、大いに迷い悩みます。しかし、先輩や同級生や後輩や教員らとの人間関係の中で、それぞれが、できる最大限のことを着実に実行して、それを克服し、3年生になり、班活動等が一段落したとき、大きな充実感と誇りを得ています。生徒諸君が、そのような高校生活を送れる環境があるため、大きな伸び代を残して卒業できているのだと思います。

ただいま、本校は、平成23年度から5年間、2期目のスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)の指定を受け、国からの財政的な支援等も受けながら、これまで実施してきております京都大学や滋賀医科大学での特別講座や特別授業などとともに、日頃の授業では「聴く、書く」中心のものから「考

### 新入会員

### 真の「学び」

平成24年3月卒業 篠崎 陽



今、卒業を迎えて私が思うことは、本当の意味で「学び」ことができるというのがどれだけ素晴らしいことだろうか、ということだ。ある著者が言っていました。「必要なことは放っておいても絶対する。必要でないことを知ることも本気の勉強なのだ。」と。今関係が必要からと言って切り捨てたりしているものがありました。しかし、今そうでなくとも、これからの人生に後悔が無いなど、まだまだ若い自分がどうして言い切れたのでしょうか。あのときやっておけば良かったと後悔したことは、皆さんも少なからず経験していることだと思います。私の二〇年未満の人生の中にも多々あります。何かの選択をする際、後悔とは必ず付きまとうものです。しかしそれはすべて自らの行動の結果であり、人生とはそういう選択の連続だと思えます。その選択ということに関して言うなら、我々は恵まれた状況にあるはずで

え、表現する」を多く取り入れたものにするための研究を行っております。

SSH事業の一環として平成24年2月18日の行いました理科の課題研究発表会には、昭和30年卒で現在、国会図書館長をされております長尾 真様に「勉強への招待」という演題で基調講演をいただきました。そのお話から生徒諸君は「努力を続けることが、志の実現に必ずつながる」という先輩からのメッセージを、しっかりと受け止めていました。

また、これまでのSSHで得られた成果を本校だけに留めず、石山高校、守山高校、虎姫高校、安曇川高校の生徒諸君や先生とともにさらに研究し、発展させることを目的としたコアSSHの指定も併せて3年間受け、5校の生徒や教員が課題研究や授業などで交流を深めており、年度末には、二週間、各学校での課題研究成果をイギリスのケンブリッジ大学で発表して参りました。本校の生徒諸君はもちろんです。他の4校の生徒諸君も大変よかったですと言ってもらっております。その際には、本校の卒業生の方のお世話になっており、ここでも膳所高校の同窓会の皆様のおかげで実現しております。

校門に入って右手にソメイヨシノではなく山桜の木があります。この桜は、「遵義の桜」ということで、同窓会の皆様から頂いたもので、一昨年末まで、あまりは花が咲かなかったそうでしたが、その原因が、土壌にあるということだ。土を入れ替えていただいたところ、多くの可憐な花が咲きました。この桜が、生徒であるとするならば、私たちが教職員は、土であると思っております。適した土壌によって、桜の木が、高く太く成長し、毎年、すばらしく可憐な花を咲かせるように、生徒諸君が、将来、日本だけでなく、世界のリーダーとして立派に成長していくために必要なことを、適切に与えることができるような教職員集団でなければならぬと考えております。

伝統ある膳所高校同窓会の皆様、今後も、ますます発展されますようにと強く思っております。

昨年の三月、東北地方で大きな震災がありました。大勢の方々が命を奪われ、避難生活を余儀なくされ、これからの様々な障害が現れることでしょう。だからこそ我々は自分たちに選択の余地があることを、自分たちのやりたいことが出来るという喜びを、噛み締めていかなければならないでしょう。夢が見つからない、それは今の時代多くの人が共感できることだと思います。しかしそのことに対して嘆くのではなく、自分分のいる現状に感謝し、またやりたいことがないのなら、自分から視野を広く持つて新しいものに触れていくことがどれだけ大切なことか。

これからの人生の中で様々な困難に直面した時に、仲間たちと過ごす中で見つけた様々なこと、高校生活で学んだ本当の意味での「学び」が、きつと役に立つのではないかと。そう期待せずにはいられません。

最後に膳所高校での三年間は、私達にとって非常に有意義で、かつ自分を成長させてくれたものであったと断言できます。そう思えるのも、両親、仲間、先生方、周囲の人々の存在があったからこそです。特に膳所高校の素晴らしい仲間たちには感謝してもしきれません。今まで本当にありがとうございました。

### 本年度の総会は5月20日(日) 平成24年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高校同窓会 平成24年度定例総会を左記の要領により開催いたします。

70周年記念同窓会をはじめ多数の学年の周年同窓会が盛会に行われています。関東膳所高校同窓会も二年目を迎え、成人同窓会も定着してきました。本年度の総会に同窓会員の皆様方多数のご出席をお願い申し上げます。

### 平成二十四年度 定例総会

日時 平成24年5月20日(日) 午前10時開会 (午前9時30分 受付開始)

場所 大津プリンスホテル 本館3階プリンスホール 大津市におの浜4丁目7番7号 電話 077(521) 1111

●感謝状贈呈 本校教職10年勤務者

●議事 一、平成23年度会務報告・部会報告 一、平成24年度事業計画案 一、平成24年度予算案 一、その他

●講演 「日本教育史における膳所高校の価値」 講師 八幡 和郎 氏 (膳所高校18回 昭和45年卒業) 徳島文理大学教授・評論家・歴史作家

●懇親会 懇親会にご出席の方は、当日受付にて会費六、〇〇〇円をいただきます。

●欠席の方及び異動のない方はご返信は不要です。

●講師のプロフィール

昭和45年 膳所高校卒業

昭和50年 東京大学法学部卒業 通商産業省入省 フランス国立行政学院(NZ) 留学

パリ・リエージュ国立産業調査員 大臣官房情報管理課長 などを経て、平成9年 退官 平成16年から 徳島文理大学教授をつとめるとともに、評論家、歴史作家 著書「本当はスコイ国? タマナ国? 日本の通信簿」 「47都道府県の名門高校」 「松下政経塾が日本をダメにした」 など多数

近代日本が成功した理由のひとつに、全国47都道府県にまんべんなくレベルの高い中等教育機関があったことが上げられる。

江戸時代の藩校、旧制中学校など時代によって形を変えているが、それぞれがいかなる経緯で生まれ、変遷してきたかについて著書「47都道府県の名門高校」(平凡社新書)で紹介した趣旨に沿って解説するとともに、そのなかで、膳所高校の位置づけを時代ごとに明らかにしていく。

江戸時代の教育水準は本当のところ高かったのか? 膳所高校と藩校連義堂など現代の高校と旧藩高の関係の真実は? という経緯で彦根県が一中で膳所が二中だったのか? 県庁が彦根でなく大津になった理由は? 女学校も含めた戦前の学校と現在の高校の関係は? 全国の公立高校で進学校として生き延びたところと没落したところの差は? 今後の中等教育の課題は? 国際的に見て日本の学力水準は? といった多くの人がもつ疑問につき、全国47都道府県や諸外国との比較を踏まえて論じる。



### 講演の主旨

近代日本が成功した理由のひとつに、全国47都道府県にまんべんなくレベルの高い中等教育機関があったことが上げられる。江戸時代の藩校、旧制中学校など時代によって形を変えているが、それぞれがいかなる経緯で生まれ、変遷してきたかについて著書「47都道府県の名門高校」(平凡社新書)で紹介した趣旨に沿って解説するとともに、そのなかで、膳所高校の位置づけを時代ごとに明らかにしていく。江戸時代の教育水準は本当のところ高かったのか? 膳所高校と藩校連義堂など現代の高校と旧藩高の関係の真実は? という経緯で彦根県が一中で膳所が二中だったのか? 県庁が彦根でなく大津になった理由は? 女学校も含めた戦前の学校と現在の高校の関係は? 全国の公立高校で進学校として生き延びたところと没落したところの差は? 今後の中等教育の課題は? 国際的に見て日本の学力水準は? といった多くの人がもつ疑問につき、全国47都道府県や諸外国との比較を踏まえて論じる。

# 理想を実現し社会へ貢献したい

平成6年膳所高校42回卒  
大津市長 越 直美



「世の中を変えたい！」という中学生の頃からの強い思いや願いが実り、今年1月に第23代大津市長に就任させていただきました。ありがとうございました。

このことは、私を支えて頂いた、たいへん多くの関係者の皆様とご支援を頂戴した市民の皆様のおかげであると紙面をお借りして衷心より感謝申し上げます。

私は、平成3年4月に本校に入学をいたしました。在学中は、勉学とともにクラブ活動の水泳に打ち込んでおりましたが、「遵義力行」の精神を学校生活の中で自然のうちに培っていたことを今になってつくづく感じております。本当に自分のやりたい理想の実現に向けて、誠実な心で心理と正義を追求し、人類の未来に貢献することともに、自主自立を尊び、心身を鍛えて立ち向かうということです。膳所高校の存在が今の私の人生の礎を築いたものと深く感謝しております。

さて、私が政治家になりたいと初めて考えたのは、中学生の頃に祖母が腰の骨を折り寝たきりになったことが発端です。母は仕事を辞めざるを得なくなり、階段での車椅子の運び上げや風呂など、在宅介護の苦勞

を目の当たりにしました。当時、介護保険や支援体制は無く、市の福祉への不満、不安を持ったのが「政治家」を目指すきっかけとなりました。その後、私は弁護士となり、平成20年にはハーバード大学ロースクールに留学したのですが、その頃アメリカ大統領選が山場を迎えていました。オバマの母校であり、彼を盛んに応援する活動に触れ、「世の中を変えよう」という熱気を感じ、私も夢の実現に意欲を掻き立てられた、という大きな契機です。

今、大津市長になり、私が最も変えたいと思うことは「福祉」と「子育て」です。市民と接する市としての権限が大きい行政分野でもあります。マニフェストに「5つのスマイルプロジェクト」と「7色に輝く大津市」という政策目標を掲げており、重点的に23の政策課題を克服して、4年間という任期の中で大津を変えたいと考えております。一言で申し上げれば、「笑顔があふれる大津」を市民の皆様と一緒に創って参ります。

最後に、オバマ大統領は私の尊敬する政治家の一人でありますが、彼は対話を重視する政治家と言われています。私も融和を求め姿勢を身につけ、「市民の方々の声」に耳を傾けて、市民の視点を大切にできる政治家を目指し、元氣な笑顔で走り続けていきたいと考えております。

# 平成23年度コアSSH「イギリス研修」

副校長 田中 芳秀



今年3月10日から22日までの13日間、膳所高校の2年生16名と県内の連携4高校の2年生16名が参加してイギリス研修が行われました。この研修は、本校が指定を受けている文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の特別枠「地域の中核拠点形成事業」（コアSSH事業）の一環として実施しているものです。本校が中核拠点

校となつて、昨年6月から、大学教授等による現代科学に関する講義や実習、科学技術に関する英語の学習や英語による表現活動についての講習を行い、また、グループでの課題研究に取り組んで来ました。そして、この3月、ケンブリッジ大学でその成果を英語で発表するとともに、世界に大きく目を開き、将来、世界で

活躍できる人材の育成を目指して、イギリス研修を実施しました。

イギリス研修では、最初の9日間、ケンブリッジ市内に滞在しました。生徒はホームステイをして、イギリスの文化や生活様式を体験するとともに、ジーザスカレッジで科学英語講座を受講し、ケンブリッジ大学の研究者の前でのグループ研究の口頭発表、市内各所で開催されているScience Festivalの科学展示の見学、オックスフォードへの1日研修など、科学技術について見聞を広げる充実した日々を過ごしました。

特に、核物理学で有名なキャンベディッシュ研究所の訪問では、日本から留学してしている若手研究者から、外国の大学で研究することや研究生活について生の声を聞き、世界に目を向け世界で研究することに大きな感銘を受けたようです。また、現地の高校（St Mary's School）の訪問では、実際に数学や物理などの授業に加わり、授業内容や現地の生徒の意欲関心の高さに驚いたり、また、世界各国の留学生との交流を通して国



際的な視野を広く持つたように思います。

10日目からはロンドンに入り、大英博物館、自然史博物館での見学とともに、三井住友銀行（SMBCE）を訪問し、世界的視野で経済と科学と人間の活動を考える機会となりました。このSMBCEには、欧州営業本部

# 湖国寮のカレーライス

昭和48年膳所高校卒 小林 幸夫  
弁護士・弁理士・桐蔭法科大学院教授

はじめに 私は昭和48年に膳所高校を卒業し、中央大学法学部法律学科に入学しました。同年、湖国寮に入寮し、4年間お世話になりました。今春、湖国寮がリニューアルされるのをきっかけに当時の思い出を書きます。

昭和48年、昭和52年当時の東京での学生生活・寮生活 学生運動が下火になったとはいえ、まだ血気盛んな学生が大勢いた頃でした。キャンパスの中庭でゲバ棒\*をもった学生同士が争ったり、授業中にヘルメットを被った人が突然入ってきてビラを配っていました。そんな中、武蔵野市の湖国寮（最寄駅はJR三鷹駅）では滋賀県詠りの男子学生（約100人）がのんびりと暮らしていました。風呂当番や電話当番（1台の電話のそばにいて、かかってくる館内放送で呼び出す係）、怖い先輩とすれ違う時は大きな声で挨拶

長瀬古義久様を始めとする膳所高校同窓の方が何人かおられ、生徒達を暖かく迎えてくださいました。生徒は各自「英国での発見」をテーマにスピーチを行い、現地スタッフと和気藹々と英語でコミュニケーションをとるなど、研修前とは見違えるほど逞しい姿が見て取れました。

このイギリス研修の経験は、世界的視野で物事を捉え科学を探究しようとする「はじめの一步」になったと思えます。イギリスの歴史や文化、生活様式を肌で感じ、海外をより身近に捉え、近い将来、外国の大学に留学し世界で活躍する生徒も現れるものと大いに期待しています。

発表されていたのか記憶にないのですが、カレーの時は寮内にカレーの臭いが少しづつ充満していくので分かります。「今日はカレーやなあ」と友人と言いながら夕食開始時間を待ちます。食事は、ご飯もカレーもお代わり自由、福神漬も取り放題でした。「これで4杯目や」と言って食べた後、必ずピオフェルミンを飲む同室の友人がいました（今は滋賀県で教師をしています）。カレー以外にも季節の野菜、果物、魚なども食卓に上っていました。もし湖国寮に入らないうちに、アパートで一人暮らしをしていたら、自炊だと時間がかかるし、外食ならお金がかかって栄養のバランスも良くなかったことでしょう。振り返ってみると、大学4年間で大きな病気をせずに無事卒業できたのは、湖国寮の食事のおかげだと思います。本当に感謝しています。

約があったものの、好きな時間に起きて好きな時間に寝るという生活でした。寮費も安く助かりました。寮生が主体となつて行い、近所の人や女子学生が入寮できる唯一の機会である寮祭も楽しい思い出です。上の写真が昭和47年当時の寮祭の様相です。左の写真下の右端が筆者です。

## 寮の充実した食事

寮生活の楽しみは食事です。曾我さんという事務主任を兼ねた栄養士さんが献立を考え、3人の住み込みの寮母さん（1人は曾我さんの奥さん）が作ってくれました。献立は事前に



五十有余年の歴史を有する湖国寮が、今回の開寮により新たな歴史を積み重ねるとともに、今春入寮する膳所高校出身の寮生皆様方の御健闘・御活躍を期待しています。

\*ゲバ棒（暴力行為に使う棒のことをいいます）

# 校歌の変遷について(三)

昭和23年1月に高等学校設置基準が制定され、新制高等学校が発足し、同年4月に高校新設にあたっては、既存の5校(県立膳所中学校・県立大津商業/工業学校・県立大津高等学校・市立大津高等学校・市立大津女子商業学校)を解散し、3校(膳所高等学校(全日普・通信普)・大津高等学校・志賀高等学校)が設けられました。翌年4月に大改革が行われ、3校を合併し、新しく大津高等学校(全日普・商・家・定・通)が作られました。旧膳所高等学校を東校舎、旧大津高等学校を西校舎と呼ばれ、男女共学となりました。この時は、校歌は統一されたものではなく、各々入学時の学校の校歌を卒業式などにグループごとで歌っていたような状況であったそうです。

23年秋頃の『膳所高新聞』に生徒に「校歌を作ろう」という呼びかけがあったようですが、翌春に再編が予定されていたため、新校歌の制作には着手しにくかったようでした。

こうした流れがあり、東校舎時の24年秋頃に在校生の提出された校歌の歌詞が採用され、音楽科の先生が作曲されました。

## 大津高等学校校歌

作詞 山本 温子  
作曲 片岡 晴太郎(音楽科)

一 比良の嶺に雲はいゆきて 鳩の湖たゆたふ畔  
若人はここに集ひぬ 輝ける大津高校

二 智の泉真理の岡は はるかなりいざ共にこそ  
ひたぶるに道を求めて のびゆかん大津高校

三 小波の志賀の都に 咲き匂う文化の園生  
とこしへの香りぞ高き 光りあれ大津高校

この時期、この校歌を東校舎、西校舎とも歌われたようです。

27年4月に再編成があり、本校は大津高校から大津東高校(全日普・通信普)に校名が改称されました。東高校は、3年前の統合から学制改革前の膳所中学校と市内の高等女学校の一部に編成されました。(大津西高等学校は(全日商・家・定)となりました。)

大津東高校と改名されたため、大津高校の校歌の各

番の終わりに「大津高校」の校名が入っており校名のところが歌えなくなりました。

「大津高校」のところを「大津東高校」と歌われるようになったようですが、「歌にくい」、「曲としておかしい」などといったようなことから、27年春頃から生徒から「一層のこと新しい校歌を」の声があり、先生の方からも同じような声が出ていたようです。(東高等学校の校名は昭和27年4月から昭和31年3月までです。)

このことは今の膳所高校の校歌に繋がる動きであったようです。以下次号。

科学の甲子園  
銀メダル



平成24年3月24日、25日に西宮市で行われた「第一回科学の甲子園全国大会」で膳所高校が銀メダルを獲得した。全国から集まった49校(363人)の高校生が顕微鏡で植物の茎を識別する実験やモーターカー作りを競った。

金メダル 浦和高(埼玉)、銅メダル 岡崎高(愛知)。

『近江のかくれ里』(サンライズ出版)  
について  
昭和45年膳所高卒  
猪飼(叶) 由利子

白洲正子の紀行エッセイ『かくれ里』『近江山河抄』の舞台を訪ね、滋賀県文化振興事業団発行の季刊誌「湖国と文化」に連載した記事に追加取材して大幅加筆し、探訪に便利な地図や交通案内などを付した著書を昨年8月に出版した。

I部の「白洲正子の愛した近江」では、正子の生い立ちや近江との縁、近江関連図書などを紹介している。正子は近江を「えたいの知れぬ魅力・なにか吸い込まれるようなものがある・石造美術だけは一流・楽屋裏・歴史上の秘境・底知れぬ秘密・興味の宝庫」などと評している。

II部の「かくれ里」を訪ねて」では、油日神社・櫛野寺(甲賀市)、観音正寺(近江八幡市)、石馬寺・石塔寺・木地師の里(東近江市)、金勝寺(栗東市)、向源寺・菅浦(長浜市)、牛塔・葛川明王院(大津市)など約30ヶ所を訪ねて、正子が訪ねた時のままで残っているのか、はたまた40年の歳月が変えてしまったかも



仏魔崖 狛犬

のがあるのか、正子が訪ねたとき発見しなかったものがあるのかとのスタンスで取材をしている。

III部の『近江山河抄』にみる湖南・甲賀」では湖南三山(善水寺・長寿寺・常楽寺)など6ヶ所を紹介。6年余りの取材の末、近江の素晴らしい文化財は、そこにただ「存在」するのではなく、それを守り続けている近江の人々が「いる」のだということに気付いた。県内各地で次代に引き継ごうとしている「近江人の「心意気」に誇りを感じ、本を手にした方々に滋賀の素晴らしさを再発見してほしいと本書をまとめた。この本を手にとってくださった方が、自分の住んでいるところにこんな「宝」があるのだと気づかれ、『かくれ里』を訪ね、自分なりの「何か」を見つけてくださればと思っている。

「近江のかくれ里―白洲正子の世界を旅する」

## ひとりごと

昭和16年膳所中卒 長谷川 良治

この世に米寿までお世話になっていると脳裏に残ることが多い。

先ず膳中、よい先生に恵まれた。諸橋轍次著大漢和辞典全巻が頭に入っていた山田先生。魔法陣で世界大家七人の一人寺村先生(日本でただ一人)。実験実験で授業をされた松下先生。多士済々の方々のお陰で私は百二十名の最後部卒業だが、軍隊生活で参謀本部での任務中通訳なして英語が通じた。今になって感謝している。

次は敗戦。(終戦ではない、敗戦。終戦という語を用いるのは第三者のみ、日本は敗戦)

敗戦で、千年二千年続いた日本は消滅。占領により土地少々と日本という名は残してもらえなかった。

連合軍による占領政策で憲法以下すべてのことが変えられた。日本にそぐわない事も施行され押し付けられた。

ところが日時がたつとそれに馴らされ、また平和ボケも重なり当たり前になってしまった。

教育では、大津に軍政部が置かれた。民主化と教育改革のため情報教育課があった。

その情報教育課長にマートン中尉が就任、マートン中尉はGHQの中でも教育改革の急進的存在として君臨。その手腕を振った。

これは全国のトップを行くもので、滋賀県は教育改革の最高県となった。何かにつけて即決、実施。

そのため石部事件を筆頭に県下各地でトラブルが続発。その日の内に免職、退職、休職を命ぜられ教育現場は大混乱を来した。

アメリカは日本で六三制を試行してその効果があれば採用することを考えていた。ところがマートンは六三制の効果が予想外に悪いので、余り期待できない旨本国に報告した。そのためアメリカは六三制の採用を止めた。

さて、マートンの帰国とともにマートン旋風は終わったが後始末に県下すべて困った。

膳中、膳所高校も旋風の余波を受けた。

敗戦から数年後、講和条約が締結された。しかし、占領政策時代の憲法をはじめあらゆる制度や考え方でそのまま継続され現在に及んでいる。何時なおるのかわからない。

この戦争と敗戦後の復興に携わったのは明治、大正、昭和初期生まれの人達である。耐乏生活に生き、これを取り越え、臥薪嘗胆やと生きる望みを得ることができた。

滋賀、京都、奈良の人々は空襲、爆撃等の経験も少ないので敗戦の実感はないであろうが、ここでもう一度半世紀を遡り振り返って真摯に今後の歩むべき道を求めてほしい。

以上、年寄りの戯言とする。

## 同窓会事業のご案内

### ◆第8回(平成24年度)クッキングセミナー

- ・とき 平成24年6月21日(木)
- ・ところ 大津プリンスホテル 2階「比叡の間」
- ・参加費 四、〇〇〇円
- ・内容 日本料理
  - ・地元食材を使った料理
- ・定員 申込み順(先着20名様)
- ・お申し込みは、同窓会事務局まで  
TEL077・5224・4295又は  
FAX077・5224・1732
- ・参加申し込みいただいた方には追って詳細を連絡いたします。

### ◆第17回(平成24年度)ゴルフコンペ

- ・とき 平成24年9月17日(月・祝)
- ・ところ メイプルヒルズゴルフクラブ  
甲賀市信楽町田代65
- ・スタート時間 8時00分アウト・イン同時スタート  
申込×切後各自あて集合時間及び組み合わせ表を追って通知します。
- ・競技方法 ダブルペリア方式による18ホールストロークプレー
- ・当日会費 一八、〇〇〇円(予定)
- ・募集人数 但しメンバー・シニアは別料金  
30組 120名
- ・定員に達し次第キャンセルとします。

# 周年同窓会



## 70周年(膳中三九会)記念同窓会

(膳所中39回 昭和16年卒業)

京都東山の樹々も色づき、小春日和に恵まれ、平成23年10月20日ホテルプライトンシティ京都山科にて開催した。

参加者は関東から6年振りに三並君を加えて12だった会場は大いに盛り上がった。

今年8月15日夜10時からNHKスペシャル「開戦70年 日本はなぜ無謀な戦争をしたのか、指導者が語る新事実。誤った国策その舞台裏、陸海軍と戦争利権」が放映され、テレビに出演した長谷川良治少尉から内容について当時の「大本営参謀の情報戦記」等について詳しく説明を拝聴した。

終戦当日まで出席者は殆どが将校であり、中国、ビルマ、フィリピン、内地等で苦しい戦争体験談等で大賑わいだった。

最後に校歌「草生す城はあとふれど」を熱唱し、来年京都市内での再会を期して散会した。

(中谷 善助)



## 60周年記念同窓会

(旧大津高2回 昭和26年3月卒業)

昭和26年(1951年)3月、700名を越す卒業生が東校舎(現膳所高校)と西校舎(現大津高校)の2会場に分かれて卒業式が行われました。あれから、60年が経ちました。

この「60年」を記念して、「60周年記念文集」の発刊と「60周年記念同窓会」を開催することとしました。

平成21年3月に「記念文集編集委員会」を立ち上げ、「記念文集」のタイトルを「八十路の想い」としました。

終戦後の混乱期を無我夢中で過ごした苦勞話、外地から引き上げてきた際の生々しい話や遠く離れた地に嫁ぎ高校時代を限りなく懐かしむ思い、社会人・職業人として充実した人生を過ごしてきた味わい深い作品が、100名を越す仲間から集まりました。また、「記念文集」の表紙などに、同級生の画伯の提供による「切り絵」を配し、一段と格調高いものとなりました。

「60周年同窓会」は、平成23年10月13日に草津市の「クサツエスタジオホテル」で開催しました。余興などは一

切設定せず、もつぱら参加者が思う存分言葉掛け合う場となりました。

当日は、九州、関東圏さらには遠くアメリカ・カリフォルニアのほかハワイから参加者があり、総勢170人を越える仲間の集いとなり、賑やかな同窓会となりました。

宴会中は80年を生き抜いてなおこの同窓会に参加し、60周年を迎えた喜びを噛み締め、時を忘れて語り合いました。

最後は、女性10人によるリードのもと「琵琶湖周航の歌」ほか2曲を「別れ」の曲として大合唱し、なごりを惜しみつつ「記念文集」を土産にそれぞれ帰途につきました。

(久保 稔)



## 55周年記念同窓会

(大津東高4回 昭和31年卒業)

3年ぶりに、私たち東四会は、秋晴れの、平成23年10月10日(月、体育の日)午前11時30分より、琵琶湖ホテル「瑠璃の間」にて、93名の同期生の参加を得て、盛大に行われました。4組担任の岡田節夫先生のご逝去により、とうとうひとりの恩師もお迎えしない会となりましたのは、まことに無念です。式典の部では、今回からは岩崎明生君の司会により、まず東四会会長椿鐵夫が、事業報告をもちかねて開会の挨拶を行った後、新たに不帰の客となられた、2名の担任の先生と12名の同期生諸君のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げました。校歌「滎瀦の湖」の斉唱をもって式典の部を終了。引き続きホテル3階のスタジオにて参加者全員の集合写真撮影、会場舞台前で高城宗求君にカメラマンをお願いしての各組ごとの記念写真撮影をはさんで、いよいよ12時30分よりパーティーの部に移りました。

冒頭高城宗求幹事長の音頭により乾杯、会食に入りました。と、あつという間に55年前にタイムスリップ、気心の合った者どうしの話の輪があちこちに出て、歓談は大いに盛り上がりしました。お開きの午後4時も近づいて、全員で「琵琶湖周航の歌」と「逍遙歌」を立て続けに大合唱。またお出会いです元気な日、皆様どうぞお元気で！との、高橋好乃常任幹事の閉会の辞で、本会はめでたく幕を閉



じました。

別れ難き面々は連れ立って、ホテル隣のアーカス3階のカラオケB1WAVEに移動、その数49名。大部屋2室に分かれて、熱唱また熱唱。予定の2時間はあつという間に過ぎ行き、去り難き思いを抱きつつ、再会を誓い合って、午後6時に散会いたしました。

(椿 鐵夫)

## 50周年記念同窓会

(膳所高9回・昭和36年卒業)

素晴らしい秋晴れの九月二十四日(土)、第九回卒業五十周年記念同窓会が大津プリンスホテルにおいて開催された。卒業二十五周年を皮切りに五年ごとに開催し今回で六回目の同窓会である。正午からの受付を始めると同時にすでにロビーで待ちかねていた出席者が殺到、あつという間にほぼ全員の出席を確認、いかに多くの同窓生が今日の日のを楽しみにしていたか、始まる前からその様子を伺い知ることができた。恩師四名(小笠原保信先生、北条 勇先生、山本利達先生、村田辰夫先生)を迎え、同窓生百六十五名相集い、先ず二班に分かれての記念撮影を行い、十二時五十分会場のプリンスホテルの各テ

ブルに着いた。中江絹子(西堀)さんの司会よろしく「滎瀦の湖」を校歌斉唱に続いて、はや物故者となられた恩師をはじめ同窓生(五十七名)を偲び黙祷を捧げ会は始まった。幹事代表の歓迎の挨拶のあと、恩師のご紹介があり、恩師を代表して同窓生と間違えうほど若々しい村田辰夫先生のご挨拶と乾杯のご発声で開宴となった。卒業五十周年にして初めての参加者も数人おられ、あちこちでの談笑は絶えず、また終始橋本昭夫君(岸本)の素晴らしいピアノ演奏が流れる中、会は進められた。今回は五十周年記念とあつて何かに残る企画を幹事会で検討の結果、クラスごとに全員ステージに上り、あらかじめ用意されていた当時のやり歌やわらべ歌など抽選で順番を決めそれぞれ即興であったが、楽しく歌うことが出来クラスの絆を再確認しあつた。続いて同期で今も歌手活動中の渡辺正好君(歌手三條正人君・鶴岡雅義と東京ロマンチカ)が飛び入りで、デビュー曲の「小樽の人よ」をはじめ今年六月にリリースされた東日本大震災等

の復興を願って作られた新曲「勇気の歌」など素晴らしい歌声を聞かせていただき、一層盛り上がりを見せてくれた。楽しい時間はあつと言う間に過ぎるもので、予定より三十分延長し、元応援団の和田勝君の指揮の下、母校にエールを贈り、万歳三唱の後一同大きな輪を作つて恒例の「琵琶湖周航の歌」の大合唱、山根幹事の中締めの挨拶で一次会はお開きになった。



引き続き全員参加での二次会(トップオブオオツ／箱館の間)へ席を移し、美しいびわ湖を眺めながら、雰囲気もがらりと変わったところで、一次会では話せなかつた友との語らいに時間の経つのも忘れ、気がつけば始めてからすでに五時間が過ぎていた。話は尽きないが次回(古稀祝い、五十五周年)での再会を約し二次会は散会となった。遠方からの宿泊組やまだまだ話し足らずの者も多く、JR大津駅近くに予め用意していた二箇所の会場(三次会)へ場所を移し(五十／六十人)ほぼ一日思う存分同窓会の感激に浸り名残惜しいが、三々五々家路に着いた。

(松村 記)

## 45周年記念同窓会

(膳所高14回 昭和41年卒業)

3月11日の東日本大震災と続く原発事故のため、記念同窓会を開催してもよいものか悩みましたが、こんな状況の時こそ、同級生を元気づけるために予定通り同窓会は実行しようとのことで、暑さが厳しい平成23年8月14日、大津プリンスホテルに恩師の先生方、同窓生、計150名近くが集い、昭和41年卒業の同窓会を盛大に開催、一次会、二次会、三次会と大いに楽しみました。

私達の同窓会は30年、40年と各10年を節目に開催していましたが、40周年の会場が通信の大橋先生から「60歳を過ぎたら同窓会は五年おきにならないと、逢えなくなるものも多い」とお教えいただき、今回から五年ごとの開催としたのですが、その大橋先生が残念ながら鬼籍にお入りになりお顔を見られなかったのは非常に寂しい思いでした(合掌)。

団塊の世代のトップバッターである私たちは、今まで30周年では50歳代の人生を意義あるものにしようと「団塊の新段階」のしく、粋に「」のテーマを設け、40周年では、これからの人生をポジティブに生きていこうとの思いを込めて、「団塊の新段階」これからの「旬」をテーマとして、幾つになっても青臭さが抜けない同窓会を開催してきました。

今回の45周年は満65歳を迎え、リタイア組も多くなつてきたことから、実業や家業を離れた人生の過ごし方として、同級生みんなで大いに遊び、大いに学習し、地域貢献をしようとの思いを高校時代の放課後の班活動に見



立て、「高校五年生放課後班活動」として、趣味、文化、体育、社会活動など多くの班（サークル）の結成を図る機会となりました。今では、登山、ゴルフ、旅行など多くの仲間が集まって、活動を通じ、旧交を深めあうとともに、高校時代の友人関係をはるかに凌ぐ幅広い交流の輪を作りつつあります。

また、私たち膳所高校14回・昭和41年卒業生は、自分たちの同窓会を「粋膳会」と命名し、独自のHPも作成、各自の近況やトピックスをHP上にアップする活動も進め、成果を上げています。

今回は、これらの活動を更に進めるため、「粋膳会旗」大一枚、小六枚を作り、同窓会でお披露目させて頂きました。「粋膳会旗」を見かけられましたら、私たち41年卒の班活動中ですので、お気軽に声をかけていただき、時間があれば一緒に活動しましょう。」

(藤村 洋二)

## 35周年記念同窓会

(膳所高24回 昭和51年卒業)



四月三十日の昼から、昭和五十一年卒業生の同窓会を卒業三十五周年記念として、琵琶湖ホテルにて開催しました。五年前の三十周年記念から五年ぶりの学年全体の同窓会となりました。約一年前のホテルとの打ち合わせに始まり、幹事事務局の会議を重ねて行い、開催日に向けての準備を進めました。住所の掘り起こしや、ハガキの返信で人数が確定した三月下旬ごろから、次第に現実味を帯び、当日を迎えることができました。当日の参加は、百十八名ありました。受付が始まり懐かしい姿が三々五々現れ、久々の再会に早くも歓談の花が咲き乱れました。記念写真撮影後、開会の言葉、物故者に対する黙祷、我が学年の恩師であります西池先生、八木先生、羽野先生、井上先生から近況報告を含めた挨拶を賜ったあと、遠くフランス在住の薩摩先生からのメッセージが代読されました。乾杯の音頭を前代表幹事岡田隆彦君が行い、宴会もたけなわとなつていきました。「青春の思い出の歌」コーナーでは、我らの過ぎた高校時代（昭和四十八、九、五十年）の思い出の曲が、前もって届けられたリクエストをもとに会場に流され、懐かしさとともにタイムスリップした思いにさせてくれました。会の終わりの方で恩師の先生方へ記念品贈呈で、お開きへと向かいました。学年の元応援団メンバーの往年より太めになった体型で行われたエールに続き、参加者全員による校歌斉唱。その後五年後の四十周年代表幹事となる、糸岡真二君の次期開催の決意と閉会の挨拶で、ひとまず一次会は終了しました。二次会は同ホテル二階の会場で行い、座席をくじで決め、テ-

ブルのメンバーを変えて歓談しました。前もって用意した景品で、クイズ「その時、日本は、世界は」が行われました。地名、人名、事件名、名言、曲名、歌手名、書名など、難問、珍問にアルコールの入った頭で挑戦し賞品を獲得したり、楽しいひとときを昔の仲間と過ごしました。

(長谷川善隆)

## 30周年記念同窓会

(膳所高29回 昭和56年卒業)

平成24年1月3日、卒業30周年記念同窓会を大津プリンスホテル「淡海」の間にて開催しました。実は、30周年といっても正確には31周年で、昨年は幹事の怠慢？(笑)で開催できなかったのですが、1年遅れでやっと開催にこぎ着けた次第です。

1月3日開催ということで、翌日から仕事という方も多く、日程的には厳しかったにもかかわらず、各クラスの連絡係のご努力で前回は上回る152名もの同窓生と7名の恩師の先生方のご出席を頂き、幹事一同ほっとすると同時に、膳所高同窓生の絆の深さを改めて感じた次第です。

この会に先立ちまして、膳所高校新校舎見学ツアーが開催され、約70名が跡形もなくなった校舎と第1グラウンド、そして、超近代的な新校舎の内部を見学し、その後には視覚教室でサブライズ企画として、30年ぶりに西村勝晴先生による授業を受け、ありがたい言葉頂きました。

その後、場所をプリンスホテルに移し、全体写真撮影の後、開宴となりました。

まず、東日本大震災の犠牲者の方々やお亡くなりになられた先生や仲間へ黙祷を捧げた後、幹事団の下垣から1年遅れたお詫びの挨拶があり、その後大野先生から開会の宣言を頂きました。

そして、岡崎裕子さんの司会のもと、西岡先生による乾杯の音頭の後、ほぼクラスごとの円卓で最初はおいしい料理をいただきながら懐かしい友達と近況を語り合い、そのうち食べる間も惜しんであちこちの見知った顔へと話の輪が広がり、会場はすっきりとぎやかに学生時代へ戻っていききました。その間、旧校舎、新校舎のDVD映像も会場に流され、和やかな雰囲気でも時が流れていきました。この同窓会は、20周年記念以来11年ぶりの開催になりましたが、前回より参加者も増え、参加者の中から、50という人生の曲



がり角で、こんな厳しい社会情勢の中で、悩み苦しんでいたが、かつて同じ教室で机を並べた友達と再会し、またがんばれる気がしました。明日からまた職場へ戻っていくが、がんばるぞ」と力強く語ってくれました。

その後、ご出席いただいた恩師の西岡先生、西村先生、大野先生、嶋寺先生、山本博昭先生、月原先生、宮下先生から人生の先輩としてのありがたいお話をお話を伺い、まだまだご活躍されている様子にも刺激を頂きました。

そして、あつという間の3時間が過ぎ、最後にも応援団の永森君からエール一発、そして校歌CDを歌った福井君を中心に校歌を斉唱してお開きとなりました。また、次回35周年記念同窓会の幹事の立候補を募り、幹事長を山田君が努めることに決定しました。二次会は、100名もの出席でプリンスホテル最上階のラウンジをほぼ貸し切り状態で行われました。素晴らしい夜景を見ながら、班や1・2年次のクラスの輪が広がり、最後まで大盛況の同窓会になりました。

最後になりましたが、出欠連絡をいただいた各クラスの世話人の方々、当日の受付・場内整理・会計・司会進行をいただいた皆様のおかげで、素晴らしい時間を共有できましたことに感謝申し上げます。お疲れ様でした。

がんばれ29回卒業生！

(下垣 隆)

## 30周年記念同窓会

(膳所高30回 昭和57年卒業)

本年1月2日に昭和57年卒業生の30周年同窓会を開催いたしました。恩師の先生方にも5名ご出席いただき、総勢123名の参加者で琵琶湖のピアンカを会場に楽しいひと時を過ごしました。この学年では20年前にも10周年同窓会をミシガン船上で行ったことがあり、ご出席の先生から「船の好きな学年やなあ」とのコメントを頂戴いたしました。

当日はあいにくの雨の中のスタートとなりましたが、まず船をバックにして記念撮影をいたしました。その後乗船してからは思い出話や、今はフランス在住の恩師からのメッセージ、そして共に青春を過ごした留学生からの日本語でのビデオレター等、時のたつのを忘れるほどでした。このままでは船上開催の意義が...とも思われたのですが、実は切り札(?)の企画がありました。それはサブライズで準備していた「バルーンリリース」のイベント。出席者全員が用意されていた色とりどりの風船に願い事を書いたりして、それを手にして船のデッキへ移動。夕



イミングを計ったかのように雨の上がった青空に向けて、皆でいっせいに風船を空へと放ちました。童心に返ったような笑顔いっぱい素敵なひとときでした。そのときの様子も含めて写真でご覧いただける期間限定のホームページがご用意です。(http://www.eonet.ne.jp/~zeze) ログインIDとパスワードが必要となりますので、必要な方は学年幹事メンバーに連絡をおとり下さい。

(畑 知也子)

## 20周年記念同窓会

(膳所高39回 平成3年卒業)

平成3年卒業生の卒業20周年同窓会が2012年1月2日に琵琶湖ホテルにて行われました。

当日は恩師6名を含む約140名が一堂に会し、旧交を温めるとともに、新たな交流の芽を育みました。facebookのアドレスを交換している方が多かったことにイマドキ感を感じました。

なお、会費の余剰分約28万円は、日本赤十字社を通して東日本大地震の被災者へ寄付させて頂きました。どうもありがとうございました。

(藤本 健太)



## 5周年記念同窓会

(膳所高55回 平成19年卒業)

2010年1月2日にホテル京都グランドヴィアにて、卒業5周年記念同窓会を開催しました。お正月という多忙な時期にもかかわらず、250名を超える出席者が集まり、10名の恩師の方々にもご臨席頂きました。

懐かしい友達や恩師と再会し、高校生当時と変わらぬ様子で歓談する姿が見られ、会が始まる前からホテルのロビーは賑わっていました。

会は同窓会委員の二ノ宮聖也くんと本郷賢彦くんの司会で行なわれ、同窓会委員代表の奥村将太くんの挨拶でスタートしました。成人式後に行った前回の同窓会から三年、卒業式から

はすでに五年の月日が流れておりますが、一度話をするとまるで高校生当時のタイムスリップしたようであつという間に時間が経ちました。会の中盤からは、高校生当時の写真を使用したスライドショーを流しながら、懐かしい気持ちで歓談を楽しみました。最後に、当時学年主任を務めておられた奈良先生の「挨拶」によって、今回の同窓会は締めくくられました。

文武両道をモットーとして掲げている膳所高校ですが、私たちにあっては学生時代とは、自分の限界に挑戦する辛さや、さまざまな葛藤に苦しんだ時期だったのではないのでしょうか。ですが思い返してみれば、夢中に努力していたあのころの経験が、今の自分の力になっているという方も多いと思います。今回の同窓会は皆にとつて、学生時代を懐かしみ、当時の仲間との絆を再確認するよい機会になったはずで、これからの私たちは、いくつもの路に分かれて進んでいくことでしょう。ですが、膳所高校で過ごした日々を心に留め、気持ちだけはいつまでもあの頃のまま、澁刺と生きていきたいと思えます。

(正田 詩織)



# 記念同窓会

## 膳所中四三回(四卒)同級会

(昭和20年卒業)

平成23年10月20日第26回目の同級会を草津駅前のレストランプラザ草津で開催した。出席は32名、卒業総員214名の15%。加齢現象には勝てない。だが「元気な者は来年も是非まらう」との掛け声で、次の世話人グループも決めて別れた。

がある。「懐しき安土(生活)時代」なるニューアンスなのだ。なぜ「安土(あづち)」なんだ。60数年前の四年生二〇〇名、10カ月の集団生活は大人になるうとする生意気盛りの吾々「石鹿健児」の心の成長にもたらした影響は決して小さいものではなかつたのだから。太平洋戦争終末期の田園「安土」での膳中四年生の生活振りを少い紙数の中、手練り寄せよう。



戦況急迫の戦時下、学徒動員で琵琶湖干拓事業要員として吾々四年生約二〇〇名は安土で全員合宿生活に入った。(昭和19年9月)4個人編成の1個中隊、準陸軍式組織。各隊長は生徒(3ヵ月交替制)。先生方、配属将校の全般的監督、指導の下にあると言え、日常作業の推進と、生活面の規律、分担当理は各隊長中心の自活方式である。

「同じ釜の飯」の仲間。ノミ、シラミ退治も一緒に寝食を共にする男の裸のつき合いは互いの信頼感、心の結び付を強め、ひいては小隊としての団結、小隊間の協同、団結心の強まりに結びついていたと思う。この様な生活が翌年(昭和20年)6月末まで10ヵ月間続いた。担当の土木作業は殆ど人力頼み。成長途上の段階にある吾々にとっては「いざいざ」厳しかった。小隊別作業量達成競争は毎日の事。負けじ魂、根性較べた。上位成績で瞬時誇りと達成感を味わう間もあらばこそ、遅れている小隊の応援に駆けつける。負けた小隊は勿論、4個の各小隊はそれぞれに作業方法の改善に皆で頭を絞る。ここで筆者は今になって校歌の歌詞の中の「自主」と「力行」なる教訓を思い出した。何げなく歌っていた校歌の中の大事な言葉である。知らず知らずのうちに当時の吾々生徒の心を育てて頂いていたのだと思う。膳中歴史上有名な教頭先生「ハブ」さん。「石鹿健児」の校歌の作詞者、山田有功先生に改めて感謝することを忘れないようにしようと思う。

一方、ハードな土木作業の間の週一回の休日の生活。ある意味で大変恵まれていた。あの頃日本本土各地はほとんど毎日の様に米軍の空襲に晒されていたのだが幸い「安土周辺」は湖、平野、山間部で、目星しい軍事施設、工場もなく米軍の標的外だったのが幸いした。友人同志での野山歩き、魚釣り、安土城跡を始めとする旧跡歩き、小学校校庭の利用と、平時と変らぬ伸び伸びとした休日が過ごせた。英気も回復できた。

最大の不便は風呂場が極めて少ない事。水洗い、水拭きだけでは、疲労回復不十分でなく、宿舎での最大の敵、シラミ、ノミの大発生、襲撃に悩まされ通し。付近の農家の好意の貰い風呂も焼石に水。(注)食事の質は別として、量はそこそこ満たされていた。最後に一寸息抜きを!

病気をしたらお医者様が頼り。膳中隊の健康管理医は安土在住の若くて美人の女医先生。ほんのちよつとした風邪、腹痛も大げさに医院へ駆けつけて、憧れの女医さんに甘えてくる者もちよつとよいいた模様。これも大事な思い出話ではある。戦時中多感な中四生がこんな体験を持てば60数年後も懐かしく「安土時代」と称して旧友と話したくなるのも無理からぬことだろう。

(竹川 昭夫記)

## 毘寿の集い

(大津東第一回 昭和28年卒業)

私達同期の「毘寿の集い」は、平成23年10月31日、琵琶湖ホテルを会場に開催されました。55周年同窓会の折に、毘寿の年に改めて毘び合おうと計画された同窓会。130名を上限との予想を上回る147名の参加者に、幹事一同感激でした。司会進行は関守君にお願いし、開会挨拶、恩師並びに同期の物故者への追悼の黙禱に続き、ファンファーレは私達同窓会の定番の組曲の頃の青春歌謡の合唱は田中女史のピアノ伴奏に乗せられ、実に力強く、若々しいものでした。元氣の出た処で、山岸君の指導に依る現膳所高の校歌を一発勝負の速成特訓のお陰で、まずまずの出来栄で歌い終わり、会場の仲間も満足げな風でした。遠来の中村君の発声で「乾杯」を機に会は愈々祝宴の場へ...

酒の量は、年なりに落ちるも、話しつ振り、表情は日頃家庭で、ジイちゃん、バアちゃんもみるみる18才のあの頃に帰るから、同窓会は実に不思議。部活のそれ、クラスのそれ、淡い恋心のあの時代を語り合う。実に明るく、体調は年波に勝てないが、話しつ振りは元氣そのもの。宴たけなわの内に会場に流れる湖国の名調子。「さあ、みんな、これから踊ろうよ、江州音頭を...」の司会の大声に「踊れるか?心配された、江州音頭!これも幹事をはじめ多くの強制特訓数回の成果?」

母校と湖国への感謝を込め、足腰を奮い立たせ、何時の間にかの大陣は湖の波のうねりの様に広がりが、毘寿の集いに、堅苦しくないザツクバランな「集い」に...と云う思いを表すゆつたりとした流れとなり、ヨイトヨイヤマツカ、ドッコイサノセウの掛け声は会場をゆるがし、次回の「八十路の集い」を期する力強い踊りつ振りでした。友よ!仲間よ!又逢おうよ!語ろうよ!

(川口 浩)



## 還暦記念同窓会

(膳所高18回 昭和45年卒業)

2012年1月8日、同窓生137名が琵琶湖ホテル瑠璃の間で、還暦記念の楽しい集いの時を持った。半年余りの準備期間で、お互いに得意な分野を發揮できた。例えば、ホテルに頼むと高つく横断幕を作成してくれたり、会場写真をCDにして配布してくれる仲間がいた。当日は、本物のアナウンサーだった仲間が司会をしてくれ、多彩な才能に感謝しながら実施できたのは「さすが膳所」という思いを強くした。遠くは中国、天津空港から会のためだけにかけてくれた仲間もいた。



恩師の八木敏雄、嶋寺洋基、井上太刀夫先生のご参加の下、当日誕生日を迎えた仲間には赤いちゃんちゃんこと帽子をかぶってもらって、会を盛り上げた。各クラスが壇上にあがって、スピーチをした後、クラスごとの写真撮影に上った。当初3年生のクラスだけを考えていたが、そのうち、2年生の時、1年生の時、草津線組、生徒会、果ては各中学校別など、申し込みが殺到し、司会が苦慮してくれた。こんな人たちと一緒だったのかと、壇上で、「あなたも一緒?」「おまえも一緒か!」などと再発見もあった。更に、応援団長のエールの元、校歌を斉唱し、第一部はあつという間に幕を閉じた。司会の方は食事を取る時間がなかったのではと心配になったくらいであった。

最後に2012年9月17日の膳所高同窓会のゴルフコンペの呼び掛けをした。そして、3年後の2015年1月4日に次回同窓会を開催することを決め、次へ繋がる同窓会が出来た。二次会には103名の参加があり、借りていた会場を急遽増やし、隣のアーカスのカラオケルーム、実ににぎやかであった。名残惜しうであったので、費用の許す限り時間延長し、食べ物も再調達して、残金90円で、こちらもびつたり収まった。

その後、一次会に間に合わなかった仲間も加え、別会場でも盛り上がったそうである。今回不参加だった仲間も、次回の日時場所が決定しているので、参加願えれば幸いである。

(猪飼 由利子)

## 成人式同窓会

(膳所高58回 平成22年卒業)

新年が明けて早々の1月9日、私も平成21年度卒業生が成人の節目を迎えるに際し、大津プリンスホテル「プリンスホール」にて、同窓会を開催いたしました。当日



滋賀県立膳所高等学校平成21年度卒業生同窓会

は、飛び入りの参加もあって、予想を上回る約360名の同窓が集いました。また、恩師の先生方も大変ご多忙の折、学年主任の奈良先生をはじめ8名の先生方がご出席くださいました。冒頭では、先生方お一人ずつにお言葉を賜り、私たちは懐かしさとともに、自らを鼓舞する思いを感じ得ました。また、後藤倫宏君による乾杯の首頭に始まった歓談の時間は、美味しい料理にも彩られ、大変な盛り上がりを見せる楽しいひと時となりました。卒業からまだ2年しか経ってはいませんが、夢に向かってそれぞれの道を全力で駆け抜ける同窓たちの姿は、各々にとって大きな刺激を与えてくれる良きスパイスとなり、本会は今後の人生の糧となる大変意義のある思い出となったように感じます。これ程まで大勢の同窓が一挙に会する機会は、おそらく今回が最後になるのではないかと存じますが、今後も私ども同窓437名は、生涯の間として互いに刺激し合い、支え合いながら交流を続けていくものと確信しております。

最後になりましたが、この度成人を迎えるにあたり、私たちは、わが国と国際社会の将来を担ってゆく者の一員としての責任を強く認識し、膳所高校卒業生として「遵義・力行」の精神を胸に、強く誠実に生きていくことを決意いたします。並びに、本会を開催するにあたって、お力添えをいただきました、同窓会事務局の皆様、恩師の先生方、そしてプリンスホテルの皆様にご感謝申し上げます。同窓会のご報告を終えさせていただきます。

(幹事会代表 青山 誉祐)

### 関東膳所高同窓会

●平成23年11月2日に、東京にて開催、大学生18名を含む180名が参加

関東膳所高同窓会は8年ぶりに開催された平成22年に続き、23年も千代田区のグランドアーク半蔵門で開催されました。

当日は、俳優の齊藤一平さんの司会で始まり、長崎和夫会長、清水健至顧問、淵田豊朗校長、浅田幸作同窓会会長、富波義明県会議員、三日月大造衆議院議員、佐藤茂樹衆議院議員が次々と挨拶されました。その後、NHKアナウンサー野村正育さんとJリーグで活躍の矢島卓郎さんのビデオメッセージの後、松山昭子さんによるバイオリン演奏が行われました。シャンソン歌手の中島輝仔子さん



俳優の齊藤一平さんによる熱い司会  
淵田豊朗校長のご挨拶

### 周年記念同窓会 予告

#### ふなの会60周年記念同窓会

日時 平成24年5月17日(木)  
場所 琵琶湖ホテル  
連絡先 川端藤吉郎(077・587・0010)  
和田 恭三(077・565・4023)

#### 55周年記念同窓会

日時 平成24年6月10日(日) 受付12時  
場所 大津プリンスホテル「淡海」  
会費 10,000円  
連絡先 中村 幸弘(077・563・6585)  
小西英太郎(077・522・5988)  
\*詳細案内状は5月初旬にお送りします。

#### 50周年記念同窓会

日時 平成24年10月28日(日) 受付12時  
場所 琵琶湖ホテル「瑠璃の間」  
会費 10,000円  
連絡先 白井 勝義(077・525・3933)  
小林 辰也(0748・62・1112)  
\*予告案内は7月初旬に、本案内は9月初旬にお送りします。

#### 45周年記念同窓会

日時 平成24年9月29日(土) 受付13時30分  
場所 大津プリンスホテル 3Fプリンスホール(二次会会場)  
同ホテルコンベンションホール「淡海」  
会費 10,000円  
連絡先 沢井進一 大道良夫 東郷重明 中村光信  
岩崎正康(0742・71・8068)  
\*詳細は7~8月にはご案内いたします。

#### 40周年記念同窓会

日時 平成24年8月19日(日)  
午前11時~午後2時(受付開始10時)  
場所 琵琶湖ホテル3F「瑠璃の間」  
(大津市浜町2 TEL077・524・7111)  
TEL077・524・4295  
FAX077・524・1732  
(卒後40周年記念同窓会)  
代表世話人 西出 喜代治

#### 20周年記念同窓会

日時 平成25年1月2日(水) 午後1時  
場所 ホテルフライングシティ京都山科(山科駅前)  
代表幹事 村上 元三  
\*詳細は8月中旬頃に別途案内いたします。  
facebookで事務局を設置しました。

### 膳所高校に学んで

### ピアノと勉学の両立



僕は現在、理系の3年生として、勉強や部活、ピアノに忙しい毎日を送っています。入学当初はすべてを両立させることにとても苦労しましたが、次第に膳所高校での生活にも慣れることができ、今はバランスをとりながらすべてに精力を注いで頑張っています。一年生の頃には「第64回全日本学生音楽コンクール」にも参加し、ピアノの高校部門で全国大会第2位を頂くことができました。また3月には、びわ湖ホールで行われた「びわ湖アーティストフェスティバル2011」にも参加し、小ホールでピアノリサイタルを開くことができました。これらとちよほど同じころにテスト期間が重なったりもして、日々の勉強に追われながらピアノと向き合い続けるのはなかなか大変なことでした。時にはしんどくもありましたが、周りの方々のあたたかな応援・サポートもあって、無事にやり遂げることができました。そうした密な毎日から得られた忍耐力・集中力や、達成できたときの喜び・充実感なども大きく、今でも僕の中で確かな糧となつて生きています。一日の限られた時間の制約の中で、勉強や

### 膳所高卒業生「石鹿文庫」

著者名	書名・巻次(版次)
沢井 良介 著	●那馬台国近江説 古代近江の点と線
山田 五十生 著	●びわこ一周歩け歩け 障書をもった子どもたちのすばらしい旅
三十木 健 著	●現代アメリカ産業組織論
三十木 健 著	●アメリカ反トラスト法の経済分析
高橋 勉 著	●アメリカの産業組織
中野 千敬 共著	●やんちゃ坊主伝 戦中・戦後篇
山田 久美子 共著	●シネマ見どころ
清水 宏昭 共著	
田中 健 共著	
ガブリエリ ガイビッチ 著	●ヴェルツブルクの詩人 マックス・ダウテンダイ 伝記と遺稿

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。  
「石鹿文庫」は同窓生の著書を集めた文庫です。

#### 膳所高3年 久末 航

ピアノをそれぞれ充実させるのは困難なことですが、実際、まったくピアノに触れることなく、一日を終えることも多々あります。しかし、まったく無関係であるような両者が思わぬところで繋がっていたり、共鳴し合っていたり、新鮮な発見や驚きに出くわすこともあります。そうしたものは、色々なものに納得のいくまで取り組んでから初めて見えてくるものだと思います。これから先も様々なことに興味をもち、意欲をもって取り組みながら「貪欲に」生きていきたいと思っています。

膳所高校のもう一つの大きな魅力は、やはり「仲間」です。膳所高校にはいろいろな人がいます。純粋に心から尊敬できる人もいれば、自分とは考え方や感じ方がまったく異なる人もいます。頭のきれる数学者もいれば、美声をもつ歌い手もいる。そうした個性豊かな面々の中で、日々刺激を与え、与えられながら、互いに切磋琢磨しています。また、時に驚くような力を見せつけるのが膳所高生です。全員が取り組むときに見える強い結託力や底力はもちろんですが、湖風祭や膳所高祭での鳥肌がたつようなダンス、歌、パフォーマンスは今でも鮮明に覚えています。そうした一人ひとりがのびのびと表現でき、周りもそれを受け入れ応援してくれるところが、膳所高校の温かみだとも思います。

あと一年、残された時間をより充実したものにするためにも、色々な人との交流を大切に自分自身を向上させることができたいと思います。そして、3年生を終えたときに後悔のないような、誇りを持てるような学校生活にしていきたいです。

## 第60回卒業式



平成24年3月1日、肌寒さを感じる小雨模様のなか、本校体育館に於いて第60回卒業証書授与式が行われた。誇りと希望を胸に、普通科396名、理数科40名、計436名の生徒が、新たに膳所高等学校から旅立った。

式典は、浅田同窓会長をはじめ、今市町常任理事長、小西同総務部会長、元校長の武原先生、大崎先生、河原先生、父母教師の会の小川会長、佐野副会長、田村副会長、また、成田県議会議員、辻川青山中学校長を来賓に迎え、在校生（2年生全員、1年生各クラス代表2名）、教職員とともに、

多くの保護者の出席のもと盛大に開催された。卒業証書は、直村先生の厳かなチェンバロの演奏のなか、各クラスごとに担任が卒業生徒を呼名した後、瀧田豊朗校長からクラス代表に手渡された。瀧田校長は、式辞の中で、「1つ目は挑戦しようとする心を持ち続けること。2つ目は、吸収しようとする心、あるいは、受け入れようとする心を持ち続けること。3つ目は、『良き市民』になること。など、卒業後に期待したいことの3つの言葉をはなむけとされた。「卒業生の言葉」では、代表の中村竜太郎さんが、班活動や湖風祭、グアム修学旅行、受験勉強など、仲間と過ごした3年間の学校生活を振り返り想い出を述べ、最後に、お世話になった方々への感謝と、これからの未来を生き抜いていく決意を力強く語った。



その後、卒業生は、岩岡奈菜子さんの伴奏のもと全員で「旅立ちの日」を合唱し、会場の皆さんの大きな拍手で見送られ会場をあとにした。

また、これに先立ち、2月29日には、同窓会入会式が行われた。同窓会入会式では浅田会長がお祝いの言葉を贈られ、卒業生を代表して伊藤達さんが「入会の言葉」を述べた。小西総務部会長からは同窓会の活動等について説明がなされた。

卒業生の今後の益々の活躍を祈念しています。

## 班活動報告

### 2011年度 全国レベルの大会結果

- 報道部**
  - 放送班
    - 全国高等学校総合文化祭出場
- 体育部**
  - 空手道班
    - 第38回全国高等学校空手道選手権大会
      - 女子個人形・組手 出場 長谷川真央
  - ボート班
    - インターハイ
      - 男子シングルスカル 準決勝進出 倉本篤樹
      - 男子ダブルスカル 6位 和田優希 浅田雄介
    - 国民体育大会
      - 男子ダブルスカル 準決勝3位
    - 男子シングルスカル 準決勝3位
    - 男子ダブルスカル 準決勝3位
    - 女子舵手付き クオドルプル 準決勝3位 (滋賀選抜 北中)
  - 第23回全国高等学校選抜ボート大会
    - 出場 北中玲加
- 文化部**
  - 陸上班
    - 日本ユース選手権 出場 米田香澄
  - 美術班
    - 全国高等学校総合文化祭 出場
  - かるた班
    - 全国高等学校総合文化祭 団体戦 ベスト16
    - 第33回全国高等学校小倉百人一首 かるた選手権大会 出場
  - 物理地学班
    - 全国高等学校総合文化祭 優秀賞(全国2位)
  - 化学班
    - 全国高等学校総合文化祭 出場
  - 生物班
    - 全国高校生論文展 3等入選
  - 英語班
    - 第5回全国高校生英語コンテスト大会 出場
  - 弁論班
    - 第16回全国中学・高校コンテスト大会 出場 第3位
- 書道班**
  - 全国高等学校総合文化祭
    - 特別賞 越村梓穂(優秀作品展示会出品)
  - 第42回近江神宮全国献書大会
    - 文部科学大臣奨励賞 河本真理子
  - 第14回岐阜女子大学全国書道展
    - 準大賞 清水里璃
  - 第60回大正大学全国書道展
    - 特別賞(毎日新聞社賞) 岸本くるみ
  - 第20回国際高校生選抜書展
    - 優秀賞 清水里璃
    - 秀作賞 八重樫彩 柴田美咲

○昨年度の28号において空手班の活動報告にもれがありました。おわびして訂正いたします。

第37回全国高等学校空手道選手権大会  
女子個人 組手 出場 長谷川真央  
女子個人 形 出場 杉山侑子

## サクサク! 主要大学合格者

国立大学	合格者数	私立大学	合格者数	専修学校・各種学校	合格者数
東京大	8名	千葉大	2名	同志社女子大	21名
京都大	48名	名古屋工大	3名	京都薬科大	16名
大阪大	44名	お茶の水女子大	1名	京都産業大	13名
神戸大	43名	岡山山	1名	長浜バイ才大	3名
名古屋大	3名	その他の国立大学	13名	早稲田大	23名
北海道大	4名	(公立大学)		中央大	10名
東北大	4名	大阪府立大	7名	慶應義塾大	7名
筑波大	3名	大阪市立大	6名	東京理科大	7名
金沢大	6名	京都府立大	9名	国際基督教大	5名
横浜国立大	3名	京都府立医科大	1名	日本大	2名
岐阜大	3名	滋賀県立大	9名	明治大	2名
福井大	3名	その他の公立大	5名	日本獣医生命大	2名
滋賀大	16名	(私立大学)		その他の私立大	91名
滋賀医科大	19名	立命館大	337名		
京都工芸繊維大	12名	同志社大	192名		
京都教育大	4名	関西大	61名		
大阪教育大	4名	関西学院大	13名		
奈良女子大	4名	龍谷大	34名		
広島大	5名	近畿大	13名		
九州大	5名	京都女子大	21名		
		(専修学校・各種学校)			
		防衛大学校	2名		
		その他	1名		

(4月2日現在)

## 会費納入ありがとうございました 同窓会会費納入状況

平成23年12月と平成24年2月の2度にわたり会費納入のお願いを行いました。  
平成23年度の同窓会会費は  
**総額 8,805,000円**です。  
会員の皆様のご理解に感謝しますと共にますますのご協力を  
をお願いいたします。  
平成24年度会費振替用紙を同封しておりますのでご納入の  
ほど、よろしくお願ひ申し上げます。(財務部会)

## 会員名簿発刊のお知らせ

平成25年版会員名簿発刊の為の内容の確認・整理の「調査カード」が製作受託者(株)サルトより、平成24年8月初めに送付されます。ご協力と会員のみ完全予約販売なので、ぜひご予約をお願いします。

価格 **4,000円**(送料・税込)  
発刊日 **平成25年5月15日**  
組織組合 大村 優文字

## 編集後記



○廃寮となり解体された、膳所高卒業生をはじめ、小生も学生時代を送った「湖国寮」が今春同地で再建された。男子22名、女子10名、計32名が入寮された。入寮する本校の後輩達の前途洋々な未来に幸あれと願っている。(ST)

○会報発行も29号になりました。編集作業を終え同窓の皆様にお届けできてほっとしています。沢山のご寄稿を頂きありがとうございます。この広報誌は母校と同窓の皆様とを繋ぐ唯一の手段です。各界でご活躍の皆様方のご様子をご紹介、ご投稿下さい。

- 上野滋子 (東2)・松村暢江 (膳10)・山田 勲 (膳11)
- 東郷重明 (膳15)・卯田重子 (膳16)・藤原陽子 (膳16)
- 岡澤則子 (膳26)・堀井美香 (膳33)・本山裕行 (総務)
- 井上正雄 (総務)・小竹朋子 (総務)